

自然資本の持続可能な利用

住友化学は、「ネイチャーポジティブ」について、生物多様性保全や自然資本の持続可能な利用を重要課題に設定しています。当社は、「住友化学生物多様性行動指針」を策定し、「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーと統合的に捉え、「責務」と「貢献」の両面から様々な取り組みを推進しています。

 [住友化学グループ生物多様性行動指針（サステナビリティレポート）](#)

TNFD提言に沿った開示

当社は、自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）が2023年9月に公表した開示提言に賛同し、TNFD提言の開示推奨項目「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」に沿って開示します。各項目の詳細はサステナビリティレポートをご覧ください。

 [自然資本の持続可能な利用（サステナビリティレポート）](#)

ガバナンス

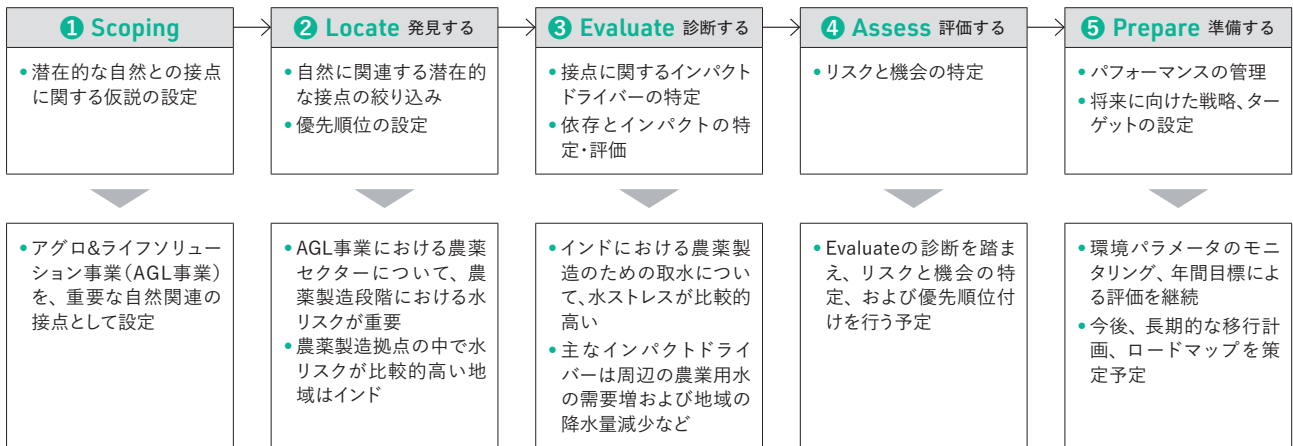
住友化学グループは、生物多様性・自然資本の保全・再興を経営の重要課題の一つと位置付けています。取締役会は、経営会議やカーボンニュートラル戦略審議会、内部統制委員会を通じて自然関連の依存と影響、リスクと機会に関する報告を受け、提言・指示を行うことで監督しています。詳細はサステナビリティレポートをご覧ください。

 [ガバナンス（サステナビリティレポート）](#)

戦略

住友化学グループは、TNFDが推奨するLEAPアプローチに基づいて、自然関連の依存と影響、リスクと機会を評価し、当社グループの戦略策定に役立てています。

LEAPアプローチのサマリー



 [戦略（サステナビリティレポート）](#)

リスク管理

住友化学グループでは、前述のLEAPアプローチの中で評価されたリスク評価項目に関しては、影響度（インパクト）とともに管理する体制を敷いています。

 [グループ横断的なリスク評価との対策の推進（サステナビリティレポート）](#)

 [組織横断的なリスクとクライシスへの対応（サステナビリティレポート）](#)

指標と目標

グローバルな自然との依存・影響に関連する指標については、住友化学単体の目標、およびグループ会社も含めた目標などでターゲットを設定し管理しています。ローカルな自然との依存・影響に関連する指標については、製造拠点ごとあるいはグループ会社ごとに個別に設定する目標などでターゲットを設定し管理しています。

 [環境 目標実績一覧表（サステナビリティレポート）](#)

当社の取り組み事例

「責務」に対する具体的な取り組み

事業活動について、地域の特性を踏まえつつ、サプライチェーンとも連携して、環境負荷の継続的な削減を目指し、生物多様性・自然資本の保全・再興に取り組みます。

- エネルギーやプロセス由来のGHG排出量削減
- 化学物質の適正管理
- 水資源の有効活用
- 廃棄物排出量の削減
- サステナブル調達取り組み推進

水資源の有効活用： 住友化学インドバーヴナガル工場における取り組み

インドにおける農薬製品の製造拠点として、住友化学インドのバーヴナガル工場があります。同工場では、生産に必要な水の確保のため、地元の自治体から河川水を購入していましたが、近年、周辺地域の人口増加、農業用水の需要増に加えて年間降水量の減少などの理由から、生産活動に必要な水量の確保が難しい状況となっていました。

そこで、周辺自治体が処理している家庭排水の一部を購入し、ミミズ養殖の技術を用いて自社内でその排水を処理して生産に利用することとしました。この取り組みによって、生産活動に必要な水量の安定確保という長年の課題を解決するとともに、従来自治体から購入していた河川水を70%以上削減することで、水購入費も半分程度に抑える経済効果も実現しました。

排水処理の様子



養分を比較的多く含む生活排水の特徴に合わせて、一般的な活性汚泥法ではなく、ミミズ養殖の技術を用いて処理

 [「責務」「貢献」に対する具体的な取り組み（サステナビリティレポート）](#)

「貢献」に対する具体的な取り組み

技術・製品、サービスの開発・提供を通じて、バリューチェーン全体での生物多様性・自然資本の保全・再興に貢献します。

- リジェネラティブ農業を推進する製品・技術の提供
- プラスチック等の資源循環に貢献する技術の開発と社会実装
- GHG排出量削減に資する製品・技術・サービスの提供

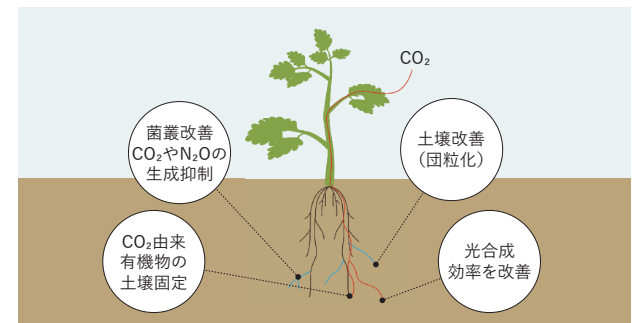
リジェネラティブ農業を推進する製品・技術の提供： ① 不耕起栽培およびカバークロップの発展

不耕起栽培は、耕起作業を行わずに作物を栽培する農法で、土壌保全や有機物の保持に加え、土壌からのCO₂放出抑制によるGHG排出削減にも寄与すると期待されています。さらに、土壌保全や緑肥効果を目的としたカバークロップと不耕起栽培を組み合わせた農法も、近年注目されています。当社は、作物の播種前に使用可能な除草剤を複数保有しており、これらの普及を通じて不耕起栽培とカバークロップの利便性を高めることで、本農法の発展に貢献します。

② 菌根菌による土壌肥沃化

菌根菌は、土壌に存在する有用な微生物で、植物の根と共生して植物の成長を促進します。また、植物の光合成によって生じた炭素化合物を受け取るという特性により、土壌中の炭素化合物が増加し、炭素固定が促進されることで、大気中のCO₂削減や土壌の肥沃化に貢献します。当社は、この菌根菌を活用した技術開発に取り組み、カーボンネガティブの実現と食糧問題の解決を目指しています。

菌根菌の効果（検証中の仮説も含む）



水資源の有効利用に資する技術の開発： 多孔質材料を活用した水利用技術の研究開発

当社は、金属有機構造体(MOF: Metal-Organic Framework)の高い比表面積と優れた吸着特性を活かし、空気中の水分を効率的に吸着・回収するMOFの研究開発を進めています。この技術を通じて、省エネルギー化による温室効果ガス削減や水資源の有効利用など環境課題の解決を目指します。

 [金属有機構造体（MOF）の開発](#)

 [住友化学公式YouTube【ノーベル化学賞×住友化学】北川進特別教授とMOFで挑む「空気中の水回収」【すみかのミカタ】](#)